

採決、公明の動向焦点

県議会「立憲・無所属の会」誕生



県議会で新たな与党会派「立憲・無所属の会」が誕生した。与党の旧おきなわ新風と中立だった旧無所属の会が合流した。少数与党から与野党同数に構図は変化、県議会での採決などへの影響が焦点となる。まずは政策推進を第一に取り進むというが、将来的には選挙協力の図式にも影響が予想される。県内最大の政治決戦である知事選を今秋に控え、期待と警戒感が交錯する。

両会派は、議事庁舎内で各議員の居室や会派室が同じ廊下にある「通り会」として交流を深めていた。旧無所属の会の當間盛夫氏らが昨年8月に日本維新の会を離脱し、合流議論は加速した。

知事選、那覇市長選影響も

影響

昨年12月には連名で玉城デニー知事への予算要請を実施して伏線を敷いていた。南城市長選では、當間氏らと近い大城憲幸氏をオール沖縄勢力の政治家らが応援して当選を果たした。

会派合流で与党と野党は同数となった。ただ、中立の公明が採決で自民に歩調を合わせれば、野党・中立で過半数を維持できる。自民関係者は「公明とは引き続き一緒にできる。(与党増の)影響はない」と自信をみせるが、公明関係者は「是々々々路線が強まる」としており、公明が採決の鍵を握る場面も増えそうだ。

与党内では7議席を擁する一連だ平和ネットが第一会派として玉城知事との連携を主導してきた。立憲・無所属は合流で議席数が並ぶこととなる。

立憲・無所属としては発言力や政策への影響力

が増すとの期待がある。早速、玉城知事と新会派の面談を模索する動きも出ている。会派関係者は「与党と県政の適切な緊張関係ができればいい」と語った。

接近

選挙協力について當間氏は「選挙互助会ではない」としつつも「協力できるところは協力していく」という姿勢だ。南城市長選の例もあり、会派内に限らずオール沖縄との距離は縮まる可能性がある。

秋の知事選後には任期満了に伴う那覇市長選が予定されている。オール沖縄勢力が候補を決めていない中、関係者らは當間氏が同勢力の支援も受けて立候補する可能性も視野に入れている。

6日に報道陣の取材に応じた際、當間氏は「非自民」の路線を改めて鮮明にした。少数与党の国政を踏まえ(野党第1党の)立憲民主という会派

を構築したいという思いがあった」と強調した。當間氏らは、元郵政民営化担当相の下地幹郎氏と活動を共にしてきた。新会派の活動に下地氏がどう関与するかや、オール沖縄との距離感がどうなるかは県内政局で目下の注目点だ。

下地氏は、自身のメルマガジンで、11月に木原稔官房長官と知事の面談が約15分だったことを受けて国を批判した上で「怒りをあらわにせず冷静に対応し続ける玉城デニー知事の人格は、実に立派であり、尊敬すべき姿勢」と激賞。年末には玉城知事と面談し、鉄軌道導入実現に向けて政策を提言している。

与党内には下地氏との接近には慎重な声もある。与党県議の一人は「下地氏の影響が読めない。(下地氏の個性を)うまく生かせればいいが、逆のみ込まれないか気になる」と話した。(明真南斗)